

ずいそう

夢のようなシンデレラストーリー



岡 さゆり

「日の丸を背負いたいならサポートするよ」と声を掛けて頂いた。

1週間に数日、仕事を終えてから走るだけの私は「そんな夢のような話、信じられません」とお断りをしていましたが、その後も熱心に説得をして頂き、24時間走世界選手権の日本代表選考会にその方のサポートを受けて参加する事を決めました。そして、24時間走った結果、日本代表として世界選手権に参加出来る夢の様なプラチナチケットを手にする事が出来ました。この事に誰よりも一番驚いたのは、フルマラソンでも思うような結果が出せていなかった私自身でした。

24時間走世界選手権とは、数キロの周回コースを走り続け、24時間後の距離で順位が決まるレースです。団体戦では各国の男女別上位3名の合計距離で順位が決まります。

私は2013年5月にオランダで行われたこのレースに参加する事が出来ました。

レース当日、朝起きるとオランダの空は目に映らない程の霧雨で肌寒く感じましたがスタート前には雨は上がり、涼風が頬を撫で嵐の前の静けさを感じました。チーム JAPAN のメンバー達は、これから24時間を共に戦う戦友であり同志です。皆で円陣を組み、チームメイトの顔を見ると昨日までの顔とは違います。自分のモチベーションが自然と高まっていくのが分かりました。

賑やかな雰囲気の中、お昼の12:00にレースは始まりました。DJの軽快なアナウンスは男女トップ3名の名前を連呼します。その中に仲間の名前が入っている事は、何より走る力となりました。私の自己記録はチームの女子の中では4番目でしたので、上位3名が実力通りの走りをすれば団体戦には関係のないポジションでした。先行する2人は優勝候補、3番目を走っている先輩ランナーも私より速いスピードで快走していましたのでプレッシャーを感じる事無く自分の走りに集中する事が出来ます。オランダの心地良い気候と綺麗な景色を楽しみながら走り始めました。数時間経過した頃、北海からの風が強く吹き出しました。風除



けと呼ぶには小さ過ぎる私の後ろに、背の高い男性選手がピッタリとついてきます。蛇行しても付いて来るのには驚きました。

日没の遅いオランダは22時を過ぎてやっと暗くなります。軽快なアナウンスが静寂へと変わりました。気が付くと自分と周りの足音が聞こえるのみとなりました。そんな中、突如雨と雹が降り出しました。暗い所に置かれていた蠟燭は次々に消え漆黒の闇を作り出します。コース上から一人また一人とランナーが消えて行きました。

私は何とかコースに残ってはいたもののスピードが上がリません。『日の丸を背負って走る経験なんて一生に一度有るか無いかだ。悔いの無い走りをしたい!』サポートの方々や応援してくれている家族と仲間を思い浮かべて走るとあんなに重かった足が軽やかに動き始めるではありませんか。陽が上ると夜の悪天候が嘘だったかの様に、暖かい太陽の日差しが心地良く照らしてくれました。6人で走り始めたチーム JAPAN 女子は、この頃迄に3名が低体温症で満足な走りが出来ない状態となっていました。私の走りが日本チームの成績に反映される事を知らされます。いつの間にか戻って来たDJは前を通る度に国名と名前を呼んで盛り上げてくれました。周を重ねる毎に観客の声援は大きくなりボルテージは一気に上がります。こんなに楽しくレースを走るのは初めてでした。最後の1時間は終わってしまうのが寂しくて、終盤とは思えない程の笑顔とハイタッチをしました。そして、ついに終了…。私の夢のような素晴らしい24時間は、終了の合図と共に終わりを迎えました。気が付くと身体はボロボロでした。電池の切れたロボットの様には私はその場にへたりこんでしまいました。やっと脳が体の痛みを感知しましたがまだ心の高揚感は収まらず、内臓は気持ち悪いと主張するのに気持ちは清々しい気持ちで一杯でした。

終わってみれば個人6位入賞と女子団体銀メダル獲得に貢献していました。

世界大会という素晴らしい舞台から半年以上が過ぎました。改めて振り返ってみると、初めての世界選手権出場は最高の経験でした。今までは臆病になって初めての事に不安を感じ、避けて来ましたが新しい事にチャレンジする大切さと色々な方々の優しさを知る事が出来ました。これからも巡り合うチャンスを無駄にする事無く、周りで支えて下さる方々に感謝をしながら充実した日々を送っていこうと思います。